

山に生きる会

活動報告書





目 次

1	自然文化保全活動	1
2	都市との交流事業	6
3	自然登山保全事業	7
4	ホームページ開設	11



みさくぼ百山調査

みさくぼ百山調査のために、標高2,296mの「中の尾根山」を調査。遠州の最高峰で南アルプス深南部を代表する山であり白倉川の源流となる。山頂付近の広大な笹原とトウヒ・シラビソの疎林が見事である。

山頂の看板を付け替えた。その他。黒法師岳、山住峠、青崩峠などにも山頂の看板を設置した。熊伏山の踏査では、登頂を目指しながら登山道の整備を行いつつ、頂上にある三角点も撮影し記録に残した。



中の尾根山を望む 標高2,296m

遠州の最高峰で南アルプス深南部を代表する山



中の尾根山山頂



熊伏山への登山道の整備



熊伏山山頂にある一等三角点

みさくぼ百山調査と山住峠看板設置

山住峠設置看板 作業工程



1. 設置場所整備



7. 設置完了

山住峠に新たな看板を設置した。
設置には、設置場所の整備にはじまり、木材の調達から切り出し、クレーン車による運び出し、卓越した熟練の技によるチェーンソーでの看板加工と据え付けなどの工程を経て、設置が完了した。

山の仕事に精通している山に生きる会の会員ならではの慣れた作業風景である。本会員の持つチェーンソーでの造形の技術・スキルは、他者の追従を許さない。



2. 切出し



6. 基礎部補強



3. 加工



5. 据付作業



4 チェーンソーによる切り出し

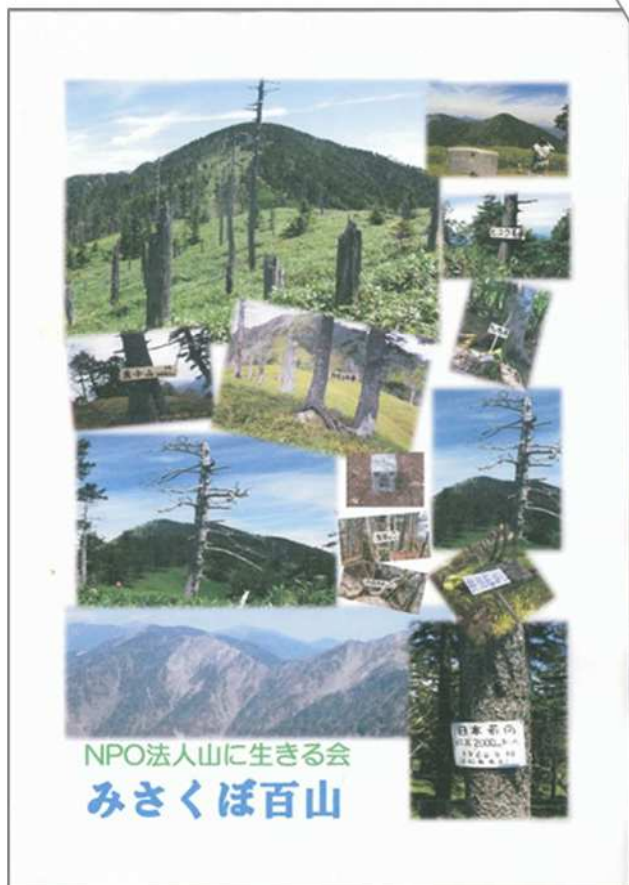
〇みさくぼ百山調査の報告書

みさくぼ百山調査の成果として、平成28年では200冊の調査報告書を作成した。（平成29年に100冊、平成30年に190冊を増刷）

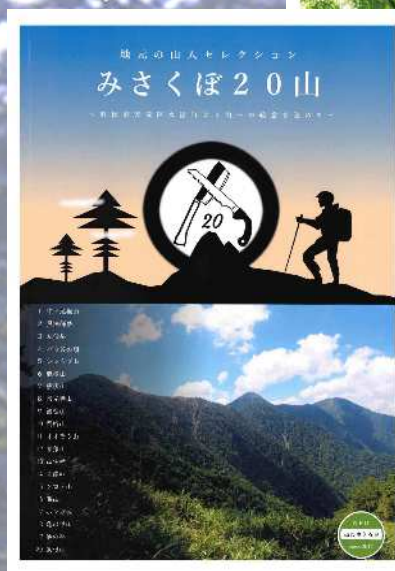
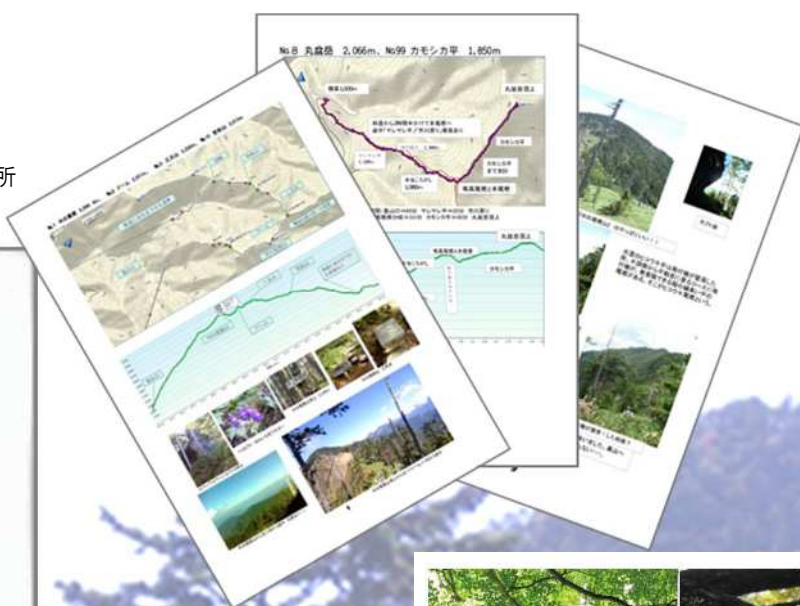
調査書には、百山の眺望や景観の良い場所の写真などを掲載するとともに、衛星利用測位システム（GPS）により割り出した正確な位置情報、標高や傾斜、登山距離をグラフで示した。危険箇所等を記録し、登山者の皆さんにも好評である。

平成5年には、「みさくぼ百山」から厳選した特におすすめの山、登りやすい山を抜粋し、山登りを楽しむための情報を盛り込んだ「みさくぼ20山」500冊を制作・発行した。

百山のルートや標高差のグラフ、眺望や景観の良い場所の写真を掲載



みさくぼ百山調査報告書



みさくぼ20山

□ 山の案内人、自然観察の講習会実施

自然観察の講習会



水窪中学校の総合学習と連携して実施。水窪の山頂などの要所にいくつか存在する三角点は、測量や地図作成の基準となる正確な位置を示す点であり、その重要性や森林の大切さについて説明した。

野鳥の森親子ウォークと リースづくり



山の案内人として、自然環境や生態系に対する理解を深め、環境保護とともに、次代の子供たちに郷土の自然の豊かさを知ってもらい、大切さを感じてもらうため、自然観察の講習会を実施した。

□ みさくぼならではのイベントや環境整備を実施

郷土料理教室・ツルかご作り



伝統食文化・技術の継承・保存として、水窪独特の郷土料理を再現し、その材料や味付け等を『レシピ』として後世に伝えていくことが大事であり、郷土料理教室やツルかご作り教室など水窪の魅力を知ってもらうための様々なイベントを企画し、実践している。

観光施設周辺整備



文化財・観光資源の整備により地域のPRとして、文化・観光資源の荒廃が進む中、水窪の資源を整備し、シンプルで良質な環境を構築するため、定期的に観光施設の周辺の草刈り、観光施設の修繕など環境づくりに努め、水窪を訪れる観光客へのおもてなしに最善を尽くしている。

□ ハイキングの企画運営

ハイキングを実施し、都市部の皆さんとの交流を図り、水窪の山の自然を満喫してもらった。こうした活動は、様々なポジティブな効果をもたらし、地域の活性化、地域の文化・伝統に触れる機会を増やし、都市部の皆さんにとってのリフレッシュ効果、環境意識の向上により自然保護やサステナビリティに対する関心が深まる。

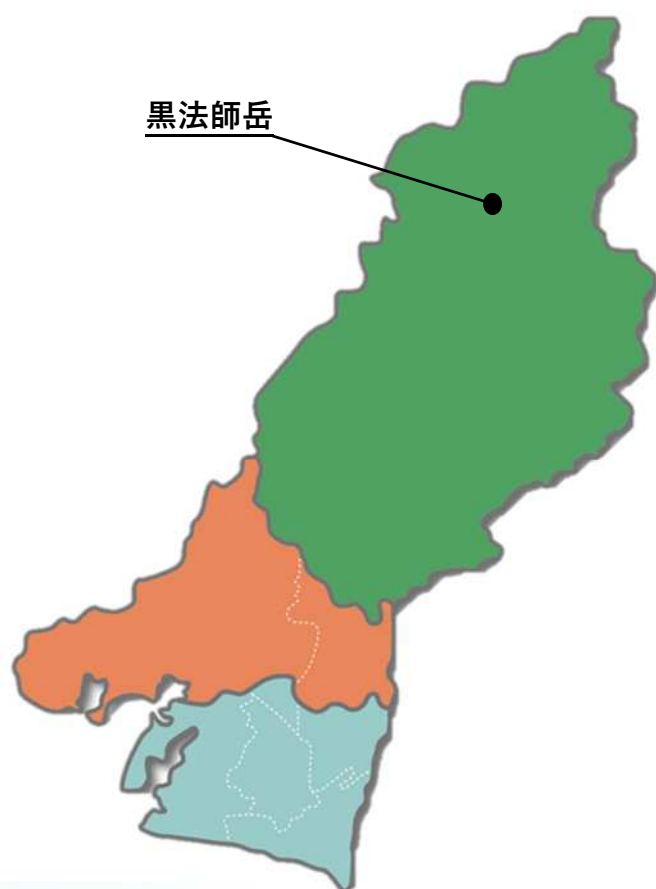
本地域と都市部との双方向の交流が進むことで、お互いの価値観の共有や理解が深まる。

野鳥の森ウォーク

国有林ウォーク

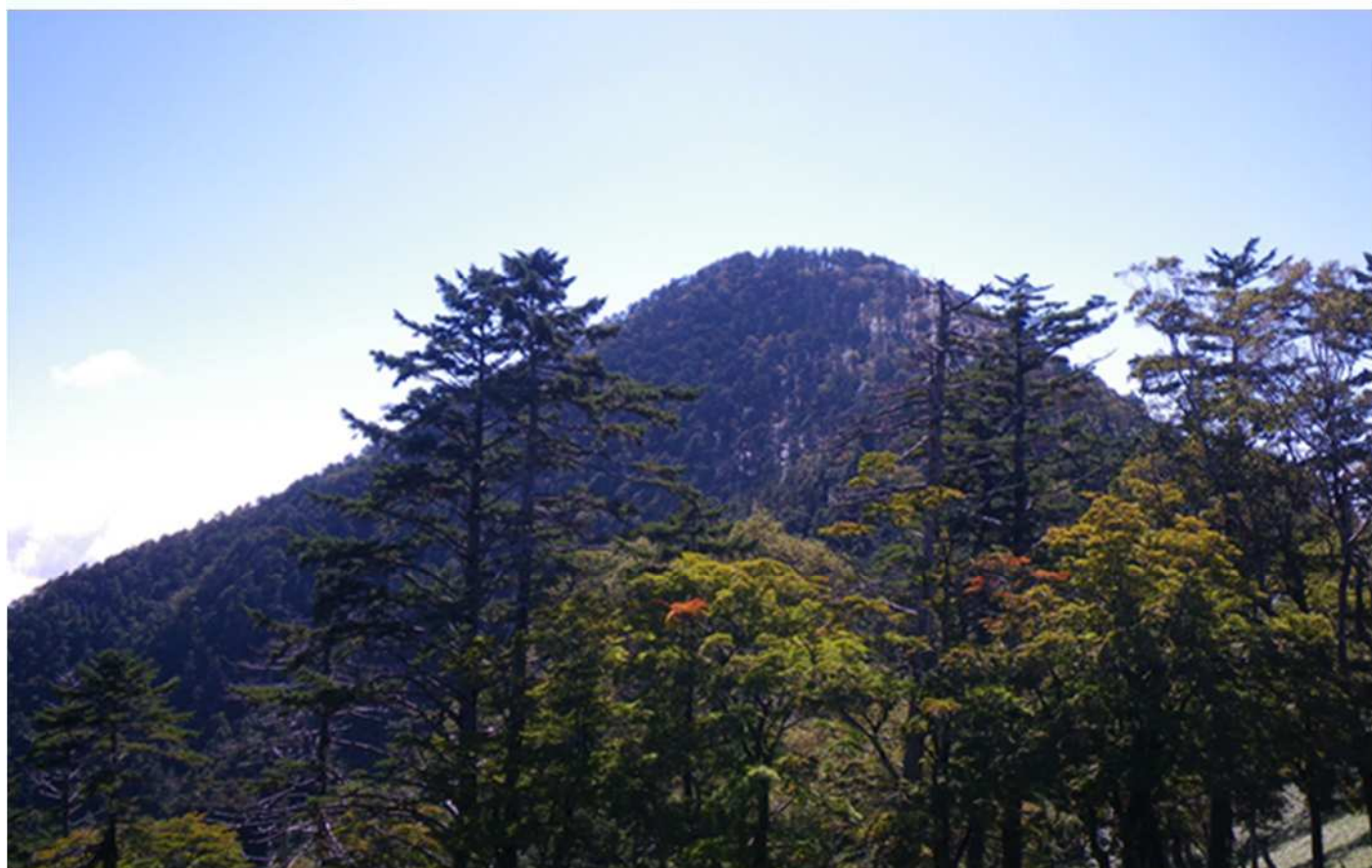


〓 みさくぼ百山調査と案内板設置



みさくぼ百山調査のために、踏査した山の一つ、黒法師岳、登頂には、往復で10時間を超える時間を要する。きれいな円錐形をしている見栄えの良い美しい山であり、頂上に向かう尾根沿いからは開けた景色を望むことができる。頂上にある三角点は、変種の一等三角点とのこと、日本三百名山のひとつ。

黒法師岳山頂までの分岐点やその場所の呼称などに看板を設置し、登山者の安心・安全の確保を図った。



〇 みさくぼ百山調査と登山道の整備

山住古道整備

山住古道は、標高1,068mの山住峠に鎮座する山住神社への参道。河内浦の鳥居場から登り始める。往時は、多くの参拝者が歩いて登った。



安全で持続可能な登山を実現するためには、登山道を整備することが重要である。

自然環境の保護に留意しながら、水はけの改善、適切なルートの設定とともに登山者が迷わないように、明確で見やすい標識の設置、階段や橋などを設置し安全対策の強化を図った。

これらを実施することが、登山者のリスクを減少させ、山岳遭難事故等を未然に防ぐものと考えている。加えて、水窪に訪れる登山者が水窪の自然環境を満喫し、楽しめる場所の提供の確保に努めた。

登山ポストの管理と修繕及び設置

登山ポストの設置・点検

登山口に登山ポストを修繕及び設置し、登山計画書を提出できる環境整備を行っている。

登山ポストの点検を実施し、万が一の遭難時の初動を早くできるように、登山者の安全の確保に努めている。

現在、山住古道を除く、8つの登山口、ゲートに登山ポストが設置されている。

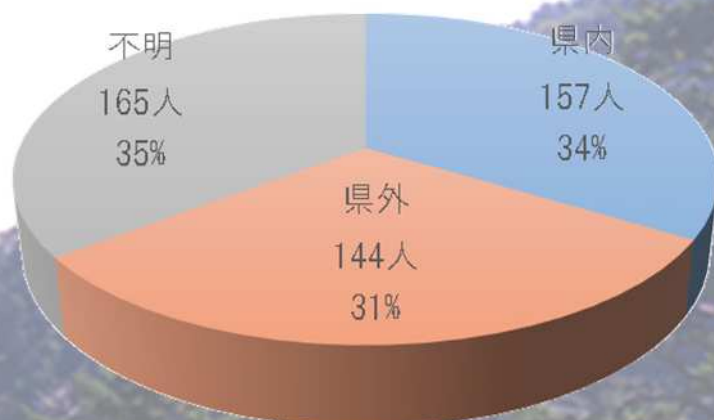


設置された看板とポスト



麻布山登山口入口ポスト点検の様子

令和5年度登山者数県内・県外別内訳 登山者総数466人



令和5年度の登山ポストに計画書を提出したうえでの登山者総数は466名で内訳は、県内157名、県外144名、不明165名である。

山ビル撃退事業



ヤマビルバスターズのキャラクターも作成。士気を高め捕殺作戦を遂行した。

ヤマビルは、野生動物の増加により水窪地域のほぼ全域に生息。観光地、登山道にも発生し、吸血される被害も多く報告され、観光客、登山者のリピート率の向上への足枷となっていた。

そこで、山ビル撃退事業として捕殺作戦を実施。

区域を設定し、3～6名のチーム（ヤマビルバスターズ）で歩道上の山ビルをおびき寄せ割りばしで捕獲、塩を入れた小瓶の中に入れ捕殺する。

地道な作業だが、令和5年度までの10年間で、8,415頭（匹）を捕殺。観光スポットへの集中的な捕殺により、少なくなってきたとの声も聞かれはじめており、成果も徐々に上がっている。



地下足袋にヤマビル



割りばしで捕獲後、塩入り小瓶で捕殺

□ ホームページ開設と情報発信

ホームページは、強力なツールであり効率的な情報伝達や新たな水産を応援していただく賛同者の確保、活動展開の手段である。

本会においても美しい山と伝統文化・芸能の町みさくぼを伝えるため、会の発足（平成23年10月）とともに本会の会員が手作りで作成し開設した。みさくぼ百山を中心に随時更新している。

山の食、水窪の巨木、水窪の野草などの水窪の魅力を積極的に情報発信するとともに水窪のタイムリーなお知らせも可能となった。



山に生きる会のロゴに秘められた意味

山=Yama

それは、太陽の光・水・二酸化炭素が光合成をして森を成し、酸素を提供する。森を源とする川は、やがて海へと流れ、また、山に戻る。

令和6年度事業実績

山に生きる会 (

月末現在)

年	月	日	曜日	場所	事業	備考
令和六年	4	14	日	山の駅周辺 ～田楽の里	みさくぼ百山『山開き』(一般募集) 9時 現地山の駅(草木)集合 (会費:1000円) (会員は8時集合) 新緑の山ウォーク&山菜採取体験 (林道堀切線又は有沢針間野線を散策) 場所を移動「田楽の里」で「郷土料理講習会」(山菜料理実施)	「飲み物」弁当準備 会員 14名 一般(サポーター山いき隊含む) 20名
		27	土	みさくぼ百山 「常光寺山」	アカヤシオと新緑ウォーキング(一般募集) 8時半『碧P』集合出発 (参加費 2000円)	(バス借用) 会員 3名 一般 6名 山いき隊 1名
		29	月	青崩古道	青崩古道ウォーク	
	5	17	金		水窪中学校「ディスカバー」(野外授業)4年生一名 水窪小学校校外学習(高根城)	会員6名(ヒルとり3名・同行3名)山いき隊2名
		28	火	文化会館	会計監査 18時半～ 役員会 19時～	
		30	木	山村開発C	18時～「NPO法人山に生きる会」定期総会・懇親会	会員12名来賓5名 (懇親会の準備)
	6	9	日	ヒョー越～青崩	水窪小学校児童野外授業協泊訓練下見	会員3名 山いき隊1名
		16	日	山村開発C調理室	「郷土料理」講習「ぎおんのごっつおう」(参加費500円/人) 9時～	
	7	4	木	ヒョー越～青崩峠	水窪小学校児童野外授業	
		5	金	田楽の里	水窪小学校児童野外授業協力(流しそうめん)	
		7	日	草木遺木沢山の駅	草刈 8:00～ 終了後慰労焼肉懇親会 セタ飾り付け	会員16名 山いき隊2名
		15	月		「海の日」	
		21	日	大里「旧市場屋」	水窪じゃがた祭り11:00～15:00	会員13名、サポーター7名参加
	8	4	日	山村開発C調理室	「郷土料理」講習(お盆三が日のごっつおう)参加者5名	会員5名 一般5名
		6		文化会館	ローカルコープ打合わせ	会員3名
				登記所	8月9日、19日浜松法務局へ理事の変更登記申請	会員1名
		11	日		「山の日」イベント(水窪の「山に日」を9月に設定実施)	
					(盃蘭盆 ノーサー再現)	中止
	9			文化会館	理事会	
		6	金	文化会館	理事会	
		7	土	シャウツ奥布中又	黒沢ガレ東側「黒沢」ガレ、1,995m峰「西俣の頭」へ看板取り付け	会員4名
		28	土	草木遺木沢山の駅	山の駅草刈り	会員10名
		29	日	山の駅・田楽の里	「山の講」開催、郷土料理講習会	会員14名
	10	6	日	オオモウ山	みさくぼ百山「オオモウ山」「徳久保山」(一般募集)	会員3名、一般7名(8名)
		12	土		ツルかご作りつるとり(山の川～天竜川線)	会員2名、一般2名
				山村開発C調理室	「郷土料理講習」(参加費500円/人)	
		19	土	浜北「プレ葉ウォーク」	山フェス(木工体験・つるかご体験、レシピ本・20山販売他)	会員19日(8名)20日(10名)
		20	日	水窪小	かしの木タイム 調べ学習 ～林業から水窪の未来を考えよう～	
	11	26	土	青崩古道	青崩古道歩こう会「ウォーキング下見	会員4名
		2	日	野鳥の森	紅葉散策ウォーク「野鳥の森」ウォーク「中止」	
		4	月	青崩古道	「青崩古道歩こう会」ウォーキング	会員5名
		10	日	「碧」駐車場	みさくぼ夢街道《木工体験、20山販売、栃もちつき、鮎塩焼き》	会員11名、サポーター6名
		13	水	山住古道	「山住古道ウォーク」午前9時「河内浦地区」現地集合出発	会員6名、一般2名、山いき隊1名
	12	28	木	文化会館	ツルかご作り講習会	会員3名、一般7名
		8	日	山村開発C調理室	「郷土料理」講習(栃粥、栃もち)	会員5名、一般 16名
		12	木	資料館「そば体験」	そば打ち体験講習会	会員2名、一般10名
		21	土	碧	忘年会	会員 12名
令和七年	1				ツゴノ沢「水溜」調査	
		10	月		ツゴノ沢「水溜」調査	
	2	24	月	文化会館	かんたん「養」づくり講習	
				山村開発C調理室	「郷土料理」講習(参加費500円/人)	
3	4	火			次年度計画調整	
	8	土		入野協働C	入野へ「ツルかご作り」講習会 13時～	

旧部落(畑梨、大寄、西山、針間野、粟代、徳久保...)の調査、「郷土料理」にこだわらない料理教室の開催

「みさくぼ百山」登山道等整備は随時実施、「みさくぼ百山」ハイキングツアーの実施

「みさくぼの郷土食」参加費 円/人【6月～基本偶数月に実施】

「ヤマビルバスター」随時実施(5月から10月)、「山岳遭難事故捜索活動」協力、「文化財・観光地環境整備」随時実施

浜松市市民協働・地域政策課の事業依頼、中山間地域と都市部とをつなぐ交流事業の協力

水窪小・中学校児童生徒の野外活動事業の協力